
あの日に限って・・・

アメメン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの日に限って・

【Nコード】

N3075C

【作者名】

アメメン

【あらすじ】

「具合が悪いから、早く帰って来て」というメッセージを妻から受け取っていたにもかかわらず、飲み歩いて酔って帰った夫の悲劇。

あの時、何故・・・という後悔の想いに、胸が重く塞がれて夜中に目が覚めた。

「あなた、今日は、少し具合が悪いの・・・。だから、今夜は、早めに帰ってきてね・・・お願い・・・」

あの晩、携帯の留守電に吹き込まれていた妻の泣き出しそうな声が、今も私の耳に絡みつく。

メッセージを聞いたのは、最初の店を出た時だった。

「もう一軒行こう！」

上司に肩を叩かれ、断れる雰囲気じゃなかった・・・というのは言い訳だ。

携帯をパチンと閉めた瞬間、次の店はあそこだ！と、頭の中で店のネオンが瞬いた。

皆を先導して歩き始めたのは、誰でもない・・・私自身だった。

あと一軒、それで家に帰るから・・・その時は、そう思っていた。でも、家に帰り着いたのは始発電車が走り始める少し前だった。

ソファで眠り込んでいる妻を起こさぬように寝室へ行き、ネクタイと眼鏡を外して、ベルトをゆるめ、ベッドに潜り込むのがやっとだった。

翌朝、けたたましい目覚ましの音に起こされた。

いつもなら、妻が止めてくれる筈なのに・・・。

昨日の今日だから、ふて腐れているんだろう・・・ぐらいに思っ、手を伸ばしてボタンを押した。

音は止まったが、自分の発したチエツという舌打ちの音が脳髄に響いた。

二日酔いなんかで、会社を休む訳にはいかない。

顔を洗おうと部屋を出ると、うたた寝をしているとばかり思っていた妻の身体は、ソファアの上で冷たくなっていた。

私は、お酒が好き・・という訳じゃなかった。

強くないし、人付き合いも苦手な方だったから、日頃は誘われても断っていたくらいだったのに・・。それが、何故かあの日に限って、断らずに誘いに乗ってしまったのだ。

酔った同僚に絡まれても苦にならず、むしろ楽しいとさえ感じていた。

そして、あの晩の酒は、不思議なくらい旨かった。

後で医者に言われた。

「奥さんは、何故、救急車を呼ばなかったんでしょねえ？あと少し処置が早ければ、助かったかもしれないのに・・」

付き合いが長かったから、妻は私の性格を熟知しているつもりだったのだろう。

私は必ず帰ってくる・・いや、すっ飛んで帰って来て、救急車でも何でも手配してくれるに違いない・・と、妻はそう思っていたのだろう。

私達は、大恋愛の末に結婚したという訳ではなかった。

断れない性格だった為に、野球部のキャプテン・・なんて柄でもない大役を押しつけられてしまった私。

妻は、それを陰で支えてくれた・っすっかり者のマナージャー・っだった。

私立の付属高校だったから、そのままエスカレーター式に同じ大学に進んで、学部もゼミも同じ。

一緒に居るのが当たり前になっていたから、卒業と同時に結婚したのだ。

私達の間には、男女の間に起こりがちな揉め事などは起こる訳も無

かった。

当然、ときめくような出来事も無かった。

喧嘩もせずに、ただ平穩に、日々を積み重ねてきた。そろそろ子供でも・・・と思い始めた矢先の妻の死だった。

悲しいという感情は湧いてこなかった。

妻の死を、自分でも驚くほど冷静に受け止めている。

ただ、私自身のこれからの人生について考えると不安になった。

一人残されてしまった私は、これからどうすれば良いのだろうか？

平日は、まだなんとかなる。会社に行って仕事をしていれば良いのだから。

だけど、日曜日は・・・？

休みの日を、どう過ごしたら良いのか分からないのだ。

私は、どうしようもない戸惑いを覚えて布団をはね除けた。

暗い部屋の中で、そんな私の問い掛けに応えてくれるのは、携帯の中で私の帰りを待ち続けている妻の声だけだった。

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3075c/>

あの日に限って・・・

2010年10月12日01時14分発行